

こども特派員が行く!!

このコーナーは、小・中学校の子どもたちが「特派員」となり、自分たちで編集・発行するものです。今回のこども特派員は、道柘山光明寺に取材にいった初島小学校6年南村航世さん、朝間天響さん、東山繭子さん、上田佳鈴さんです。

※紙面の文章及び掲載の写真はこども特派員によるものです。



光明寺は、初島小学校とのつながりが深く、初代校長が14代住職の東山義賢さんです。寺子屋だった光明寺は、明治の初め、村の学校になりました。その後、明治6年より小学校として開設されたようです。また、18代住職東山義照さん



初代初島小学校校長 東山義賢さん

光明寺とは…
光明寺は、1500年頃に建てられ、その後、1715年に再建されました。そして、1994年に再々建てられ、今に至ります。約500年の歴史があるお寺です。名前の由来は、お経に出てくる「光明」という言葉で、そこから光明寺と名付けられたそうです。

住職さんは毎日忙しい！
芳蓮さんは、朝早く起きて、朝のお念仏を唱え、花の水かえや掃除、境内の草ぬきや水やりをしています。そして、夕方に感謝のお念仏を唱えています。毎月28日には、だん家の人と一緒に庭掃除をするそうです。芳蓮さんは、毎日忙しいと思いました。

言葉は命
現在、19代目住職の東山芳蓮さんは38歳でお得度を受け、お坊さんになったそうです。最も印象的だった芳蓮さんの言葉は、「言葉は命」です。この言葉を聞いて、こんなに言葉を大切にしているのだなと思いました。私たちも言葉を大切にしようと思えました。

取材を終えて
光明寺が初小とつながりがあるのは知っていましたが、ものすごく深い関係だったので、びっくりしました。いろいろ学べてよかったです。(南村航世)
芳蓮さんの説明がとても分かりやすくて、いい機会になりました。光明寺の歴史がすごく深くてびっくりしました。(朝間天響)
光明寺の歴史が知れてよかったです。私の家の近くなので、だいたいは知っていたつもりだったけれど、初めて知ることもあって驚きました。(東山繭子)
阿弥陀如来様は、困ったことがあったらすぐに助けに行けるように前かがみになって立っていると聞いてびっくりしました。(上田佳鈴)



庭掃除を取材しました

広告



地域包括ケア病棟のご紹介

当院では、平成26年10月から、東3階病棟を地域包括ケア病棟として運用開始しています。

地域包括ケア病棟って何？

地域包括ケア病棟とは、自宅や介護施設へ退院するための準備を行う病棟です。在宅復帰に向けて、主治医・看護師・リハビリテーションスタッフ・社会福祉士等が協力し、患者様を支援します。当院では、東3階病棟で45床（4人部屋7室、個室17室）の受入態勢を整備しています。

対象者

入院の対象となる患者様は、自宅あるいは介護施設に復帰予定で、入院治療により症状は改善、または安定し、もう少し経過観察を要する方や、在宅復帰に向けたリハビリテーション、在宅での療養準備が必要な方となります。

入院期間

入院期間は、状態に応じ調整しますが、60日を限度としています。



地域包括ケア病棟での取組

当院の地域包括ケア病棟では、治療以外でも様々な取り組みを行っています。

日中は普段着で

日中は寝巻から運動しやすい普段着に着替えて過ごしています。「着替える」ということは、気分を変える、生活にメリハリをつけるという意味合いもあります。また当然、着替えにはしっかりと座ったり立ち上がったたり、全身の動作が必要とされ、自然と活動性が向上します。

日常生活動作の拡大

なるべく離床を促し、家庭での生活に近づけるよう援助しています。

デイルームで食事

日当たりの良いデイルームで、音楽を聴きながら患者様が集まって一緒に食事をします。音楽のリクエスト等にも対応しています。



リラックスして食事ができます

車イスで散歩

お天気のいい日は、看護師と一緒に病院敷地内を散歩します。



みんなで楽しむ健康体操

ベッドサイドリハビリ

寝たきりの患者様には、関節が固まらないようにリハビリ以外にマッサージや手足の曲げ伸ばしを行います。リハビリ講習を受けた看護師が、患者様のベッドでリハビリを行います。

健康体操

日常生活に必要な動作能力が衰えないように、座りながらの体操を行っています。気軽に参加できます。

広告

